

## 第 1 回再発防止対策検証委員会でいただいたご意見について

主なご意見	当社の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>住民への説明が不足</b>していたのではないかと。普通の住民に対しては、不安を払拭する<b>分かりやすい説明が必要</b>。</li> <li>・資料が行政文書のように分かりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話キャンペーン」(6/20～8/20)の実施により、経済団体、婦人会、教育関係などの諸団体での説明会、当社主催会合での説明会などの<b>直接対話を推進</b>いたします。</li> <li>・専門用語の平易な言葉への言い換え、図表の利用などにより、<b>一般の方が分かりやすい資料づくりに留意</b>いたします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国のエネルギー供給を自分たちが支えているというプライドと、<b>地元の方々に目線にあわせ共に歩んでいくという気持ちのバランスをとる</b>ことが、再発防止につながる。</li> <li>・信頼回復には<b>広聴・広報が重要</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力本部、地域共生本部の設置(6/29)により、<b>地域の皆さまの声を直接お聞きするきめ細かな広聴・広報活動を充実</b>し、地域と一体となった事業運営を目指します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉主任技術者の役割と責任が明確になったことは評価できるが、制度を整えるだけでは不十分であり、原子炉主任技術者から社長への<b>報告が実際に機能するか模擬訓練が必要</b>。</li> <li>・普段から<b>定期的に報告するなど話しやすい間柄を作っておく</b>ことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>トラブル訓練</b>」(7/19)において、「<b>原子炉主任技術者から社長への報告</b>」を実施いたしました。</li> <li>・原子炉主任技術者から社長への<b>定期報告(2回/年)の場を設定</b>するのみならず、<b>ホットラインを活用</b>するなど、<b>普段から、話しやすい関係の醸成</b>に努めます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイスレコーダーの使用やコンプライアンス教育など現場への規制を強化するだけでなく、<b>社員一人ひとりの人間性や職場環境へのケアに配慮</b>し、現場を信頼することが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織強化・増員(24名)、応援人材リスト(23名)作成などの<b>体制整備を実施したところ</b>であり、今後、<b>その効果を評価し、施策のフォローを実施</b>いたします。</li> <li>・経営トップ等と発電部門社員とのフランクな対話の実施により、相互の意思疎通を図り、風通しの良い職場風土をつくってまいります。なお、対話において出された<b>意見・要望は経営施策、部門施策への反映を検討</b>いたします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力については独立した<b>業務監察室が社長に直結する仕組み</b>が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>品質管理を専門とする部門を独立</b>させ、再発防止対策を推進するとともに、その実施状況及び実効性を確認・評価し、安全・品質管理を強化いたします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・志賀町で導入する<b>ケーブルテレビを活用</b>し、住民が発電所情報を確認できるようなことを検討して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルテレビは、発電所と地域のみなさまを直接つなぐ、大変有効なツールだと考えております。</li> <li>・今後、志賀町のCATV計画に基づいて、その<b>活用方法、コンテンツ等について、志賀町と検討、協議</b>いたします。</li> </ul>